

---

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

# TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

## 東京都感染症週報

2013年第29週  
(7月15日～7月21日)

- \* 2013年7月24日現在の情報により作成しています。  
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。  
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- \* 今週は感染症豆知識「重症熱性血小板減少症候群(SFTS)」  
も記載しています。

平成25(2013)年7月25日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター  
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)  
FAX：03-5332-7365  
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

---

## 全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2013年29週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		26週	27週	28週	29週	年累計	29週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎						1	1
	結核	114	93	81	69	2,214	332	14,228
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
指定	鳥インフルエンザ(H7N9) *2							
三類	コレラ							1
	細菌性赤痢					15	3	78
	腸管出血性大腸菌感染症	9	15	13	16	113	135	1,206
	腸チフス				1	14	1	33
	パラチフス					14		31
四類	E型肝炎					21	2	74
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎				1	14	2	89
	エキノコックス症							9
	黄熱							
	オウム病					2		6
	オムスク出血熱							
	回帰熱							
	キャサヌル森林病							
	Q熱	1				3		3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					3		3
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 *3						2	24
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱			1		3		8
	つつが虫病		1			1	4	136
	デング熱		3	2	1	27	5	103
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								
ニパウイルス感染症								
日本紅斑熱							54	
日本脳炎								

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		26週	27週	28週	29週	年累計	29週	年累計
四 類	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							1
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア					5	1	24
	野兎病							
	ライム病			1		1		4
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		2
	レジオネラ症	4	3	4		39	40	509
	レプトスピラ症			1		1		5
ロッキー山紅斑熱								
2013/7/24集計								

\*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

\*2 2013年5月6日より新たに追加指定された。

\*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。2013年3月4日より新たに追加指定された。

### ( 全数把握対象疾患のコメント・一類～四類 )

#### 〈二類感染症〉

**結核 69件** 肺結核 38件、その他の結核 10件、肺結核及びその他の結核 2件、無症状病原体保有者 17件、疑似症 2件、年齢は5歳未満 2件、20代 10件、30代 11件、40代 8件、50代 9件、60代 10件、70代 5件、80代 10件、90歳以上 4件、推定感染地は国内 67件、インドネシア 1件、韓国 1件であった。

#### 〈三類感染症〉

**腸管出血性大腸菌感染症 16件** 患者 14件(うちHUS 1件)、無症状病原体保有者 2件、血清型・毒素型はO157 VT1・VT2 5件、O157 VT2 4件、O103 VT1 1件、O26 VT1 1件、O157 VT(型不明) 3件、血清型不明VT1・VT2 1件、血清型不明VT(型不明) 1件、年齢は10歳未満 4件(うち5歳未満 3件)、20代 4件、30代 3件、40代 1件、50代 1件、60代 2件、70代 1件、推定感染地は国内 16件、推定感染経路は経口感染 8件、経口感染又はその他 1件、その他(不明) 7件であった。O157 VT1・VT2の1事例は、生レバ刺し(牛)の喫食を認めている。

**腸チフス 1件** 患者、年齢は20代、推定感染地は中国又はネパール又はインド、推定感染経路は経口感染(氷、ヤギの乳)であった。

#### 〈四類感染症〉

**A型肝炎 1件** 患者、年齢は30代、推定感染地は中国又はタイ又はインド、推定感染経路はその他(不明)であった。

**デング熱 1件** 患者、年齢は30代、推定感染地はベトナムであった。

※ 第28週該当分として、〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 2件の追加報告があった。

## 全数把握対象疾患 報告数（五類） 2013年29週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		26週	27週	28週	29週	年累計	29週	年累計
五類 (全数届出)	アメーバ赤痢	3	1	2	2	111	15	562
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)		2	1		38	2	148
	急性脳炎 *1	3		2	1	31	6	237
	クリプトスポリジウム症					1		2
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2				9	4	111
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		2	1	1	22	3	125
	後天性免疫不全症候群	8	11	6	10	264	19	844
	ジアルジア症			1		13	2	40
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *2					5		51
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *2	1				6		11
	侵襲性肺炎球菌感染症 *2	2		2	1	50	5	464
	髄膜炎菌性髄膜炎 *3	/	/	/	/			2
	先天性風しん症候群					3		8
	梅毒	7	5	8	11	216	18	621
	破傷風					3	2	68
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					6		33
	風しん	92	93	94	49	3,144	184	13,110
麻しん	1			1	50	2	165	
2013/7/24集計								

\*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

\*2 2013年4月1日より新たに追加指定された。

\*3 2013年4月1日より指定が解除された。

### （全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

**アメーバ赤痢 2件** 腸管 2件、年齢は50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は性的接触(性別不明) 1件、その他(不明) 1件であった。

**急性脳炎 1件** 病原体は単純ヘルペスウイルス、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(潜伏感染)であった。

**劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件** A群、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染であった。

**後天性免疫不全症候群 10件** AIDS 1件、無症候キャリア 8件、その他 1件、AIDS患者の年齢は40代、無症候キャリア及びその他の年齢は20代 2件、30代 3件、40代 1件、50代 1件、60代 2件、推定感染地は国内 7件、タイ 1件、米国 1件、不明 1件、推定感染経路は性的接触 10件(同性間 7件、異性間 2件、両性間 1件)であった。AIDSの1事例はアメーバ赤痢との、無症候キャリアの1事例は梅毒と、重複感染を認めている。

**侵襲性肺炎球菌感染症 1件** 血清型は未実施、年齢は80代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(不明)、肺炎球菌ワクチン接種歴は接種なしであった。

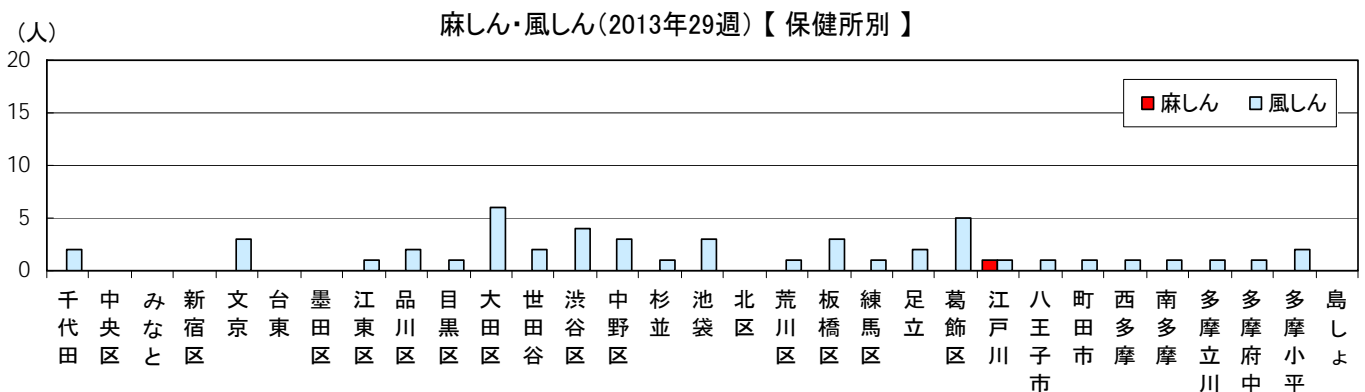
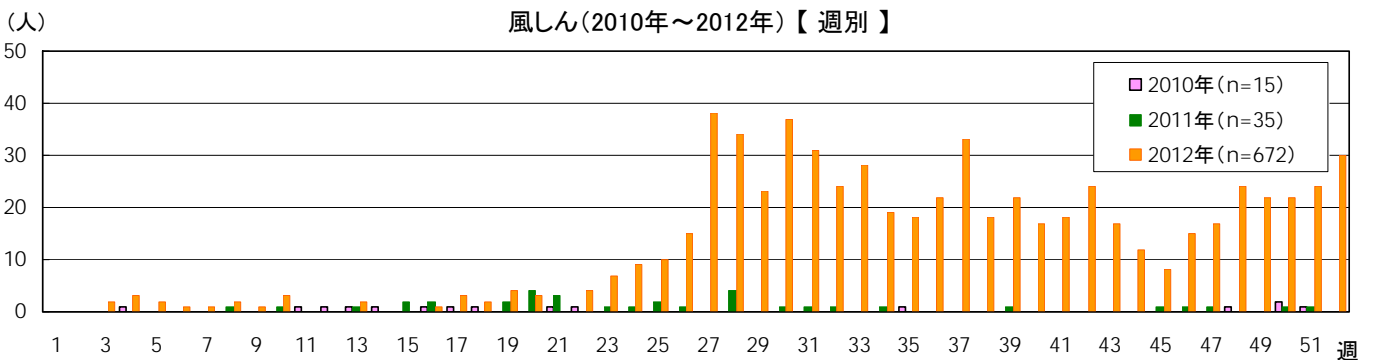
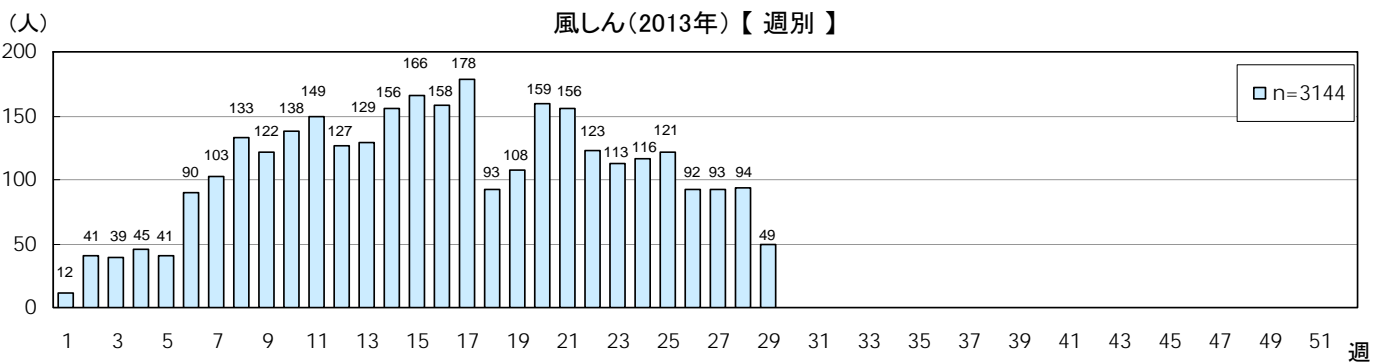
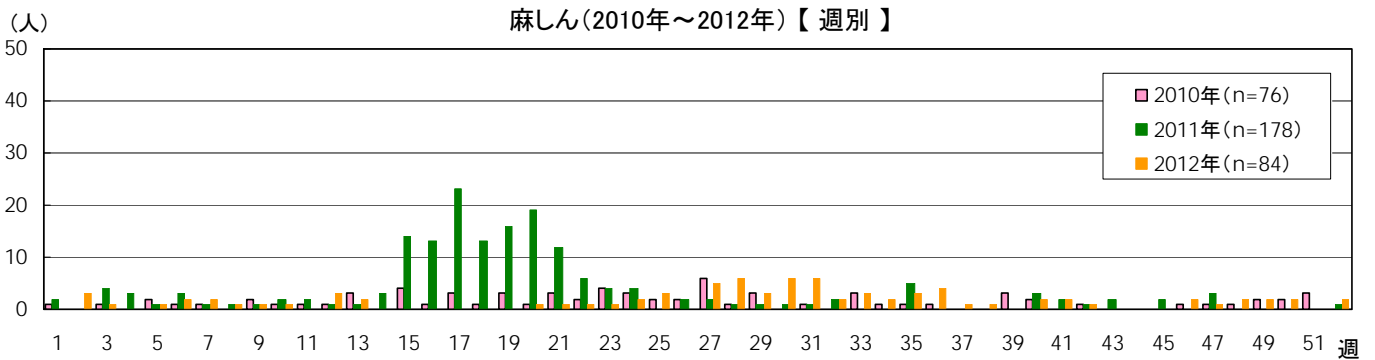
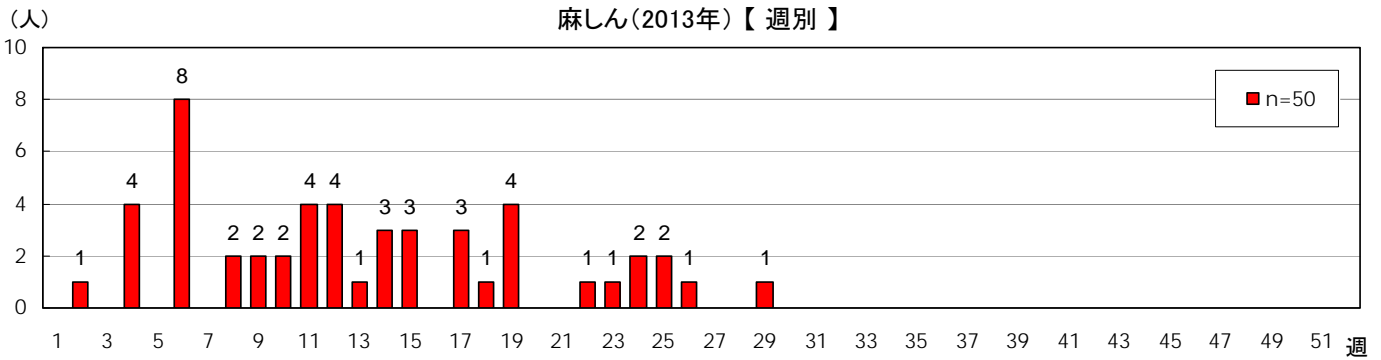
**梅毒 11件** 早期顕症梅毒 I 期 2件、早期顕症梅毒 II 期 4件、無症候梅毒 5件、年齢は20代 1件、30代 6件、40代 2件、50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 11件、推定感染経路は性的接触 11件(同性間 10件、両性間 1件)であった。

**風しん 49件** 検査診断例 36件、臨床診断例 13件、年齢は5歳未満 1件、10代 1件、20代 14件、30代 22件、40代 7件、50代 2件、60代 2件、推定感染地は国内 48件、国内又はフィリピン 1件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 23件、接触感染 4件、その他(不明) 22件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種 2件、2回接種 2件、接種なし 16件、不明 29件であった。

**麻しん 1件** 臨床診断例、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、麻しん含有ワクチン接種歴は接種なしであった。

※ 第27週該当分として〔五類〕風しん 1件、第28週該当分として〔五類〕急性脳炎 1件、梅毒 1件、風しん 1件の追加報告があった。

# 全数把握対象疾患(麻しん・風しん)報告数(週別・保健所別)



# 定点把握対象疾患 報告数 2013年29週

定点種別	対象疾患	2013年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		26週	27週	28週	29週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	31	33	39	53	0.20	262	264
	咽頭結膜熱	263	236	200	188	0.72		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	556	512	422	339	1.29		
	感染性胃腸炎	1,111	1,161	930	837	3.19		
	水痘	312	219	269	164	0.63		
	手足口病	1,044	1,575	2,842	3,593	13.71		
	伝染性紅斑	39	32	42	38	0.15		
	突発性発しん	201	193	165	203	0.77		
	百日咳	3	1	1	1	0.00		
	ヘルパンギーナ	323	548	1,007	1,077	4.11		
	流行性耳下腺炎	65	79	90	63	0.24		
	川崎病(注1)	3	7	4	3	0.01		
	不明発しん症(注1)	35	30	43	24	0.09		
	インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	43	13	8	11		
眼科	急性出血性結膜炎	1		1			39	39
	流行性角結膜炎	17	22	23	19	0.49		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	1	1	2	2	0.08	25	25
	無菌性髄膜炎			1	4	0.16		
	マイコプラズマ肺炎	14	9	9	8	0.32		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		2	1	2	0.08		
	インフルエンザ入院(注4)		1	1				

2013/7/24集計

- (注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。  
 (注2) 鳥インフルエンザを除く。  
 (注3) インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。  
 (注4) 2011年36週より開始

### (今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・手足口病の定点当たり報告数は過去10年で最も高い水準となり、27週から引き続き流行警報基準を超えている。一昨年の大流行を上回る規模となっており、今後の動向に注意が必要である。
- ・ヘルパンギーナの定点当たり報告数は増加したが、過去5年平均と比較して低い値で推移している。
- ・無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は増加した。

### (小児科・内科定点医療機関からのコメント)

#### 大田区

- ・ニュースなどで、「手足口病」がにぎわっていますが、当院ではほとんどいません。今週の二人は、保育園などにも行っていないということですが…。

#### 世田谷区

- ・アデノウイルス 3名。
- ・ヒトメタニューモウイルス 2名(3歳児、5歳児)。
- ・手足口病の20歳以上は40代。カンピロバクター 1名は10代。

#### 中野区

- ・1歳児の不明発しん症は川崎病疑いです。

#### 豊島区

- ・手足口病が多い。ヒトメタニューモウイルス感染症 2名。

#### 板橋区

- ・病原性大腸菌O1 1名。

#### 足立区

- ・アデノウイルス(3歳児)。

#### 荒川区

- ・「流行性耳下腺炎」は親子である。
- ・病原性大腸菌O6、O125、アデノウイルス咽頭炎、マイコプラズマ肺炎 各1名。
- ・病原性大腸菌O1、O6、O25 各1名。カンピロバクター 2名(重複感染有)。

#### 葛飾区

- ・アデノウイルス扁桃炎(6歳児)。

#### 八王子市

- ・アデノウイルス咽頭炎(11か月児、1歳児、5歳児)。

#### 南多摩

- ・ヘルパンギーナと手足口病が流行しています。

#### 多摩小平

- ・ロタウイルス腸炎 2名、病原性大腸菌 14名、ヒトメタニューモウイルス 1名。
- ・手足口病が増えています。保護者の罹患も見られます。

## 定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2013年29週

定点種別	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
～5か月	8			7	5	39	1	3		3	
～1歳	14	7	1	93	6	386	1	71		95	1
1歳	22	29	10	115	17	1,119	9	110	1	264	3
2歳	6	25	14	75	17	656	5	13		187	4
3歳	2	29	37	83	25	455	5	4		154	9
4歳	1	37	61	80	28	365	5	1		132	8
5歳		28	52	73	30	244				95	9
6歳		8	40	42	15	98	1			41	6
7歳		11	32	40	7	58	1	1		32	4
8歳		3	24	25	7	30	3			28	5
9歳		3	22	26	1	31	2			14	1
10～14歳		6	21	72	5	33	3			21	11
15～19歳			2	16	1	3				1	
20～29歳		2	23	90		76	2			10	2
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	53	188	339	837	164	3,593	38	203	1	1,077	63
先週比	14	-12	-83	-93	-105	751	-4	38		70	-27

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹				
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	インフルエンザ入院
～5か月							1			
～1歳	2	5								
1歳		8	1		1					
2歳	1	2	1							
3歳		3						3		
4歳		2						1		
5歳		1			1					
6歳			1							
7歳					1			2		
8歳		3								
9歳										
10～14歳					1		1	1		
15～19歳			1		1	1		1		
20～29歳			3		3					
30～39歳					5		1			
40～49歳			3		2					
50～59歳			1		2	1				
60～69歳					1					
70～79歳					1		1			
80歳以上									2	
合計	3	24	11		19	2	4	8	2	
先週比	-1	-19	3	-1	-4		3	-1	1	-1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。  
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2013年29週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				1.67		6.33				2.00
中央区		1.67	1.00	1.67		15.67		0.33		5.33
みなと	0.17	0.50	0.67	3.17	0.83	15.00	0.17	1.17		1.00
新宿区	0.38	0.13	1.38	3.25	0.38	8.75	1.13	0.25		2.75
文京		0.25	0.75	2.25	0.50	10.00		0.50		0.50
台東	0.25	0.25	1.50	4.00	0.25	15.25	1.25	1.00		1.75
墨田区	0.80	1.00	1.00	0.60	0.20	4.60		0.80		4.00
江東区	0.67	1.33	1.11	5.33	0.33	17.56		0.78		5.00
品川区			0.50	3.88	0.25	5.25	0.13	0.75		2.88
目黒区		0.25		2.50	1.75	6.50		0.50		3.00
大田区	0.69	1.38	1.54	6.54	0.69	9.92	0.08	0.85		5.85
世田谷	0.06	0.38	1.31	3.19	0.31	11.38	0.13	0.69		4.06
渋谷区		0.50	1.00	3.25		8.00		0.25		1.25
中野区			1.00	0.43	0.71	16.86		0.43		3.86
杉並		0.10	0.40	3.20	0.50	9.70		0.50		0.70
池袋	0.40	0.60	0.60	2.20		5.60		0.40		3.60
北区		0.43	0.57	1.71	0.86	16.57	0.14	0.86		1.29
荒川区	1.75	1.25	2.00	3.25	0.25	24.75		1.25		9.25
板橋区		0.30	0.30	1.70	0.70	12.50	0.50	0.60		1.60
練馬区		1.00	1.15	2.54	0.69	14.38	0.08	0.62	0.08	2.54
足立	0.31	1.08	1.85	3.38	0.38	16.00	0.08	1.31		4.85
葛飾区	0.13	0.50	0.13	5.00	0.38	10.13	0.13	0.50		2.38
江戸川	0.27	1.55	2.00	3.82	0.27	9.82		0.36		4.36
八王子市	0.09	0.82	1.91	4.73	0.55	32.36	0.27	0.82		5.18
町田市	0.13		2.75	6.25	1.00	24.50	0.13	1.13		13.13
西多摩			2.50	2.25	1.13	9.13		0.88		1.50
南多摩	0.33	0.33	1.33	1.44	1.11	23.78	0.44	0.89		7.11
多摩立川	0.14	1.36	2.79	2.00	0.93	14.36		0.86		3.64
多摩府中	0.10	0.81	1.29	2.48	1.00	10.00	0.05	0.95		6.10
多摩小平	0.13	1.47	1.07	3.73	1.00	17.13	0.07	1.33		5.20
島しょ										
東京都	0.20	0.72	1.29	3.19	0.63	13.71	0.15	0.77	0.00	4.11



定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田											
中央区											
みなと											
新宿区	0.13		0.13			0.50			2.00		
文京	0.25					2.00					
台東	0.50										
墨田区	0.40	0.20	0.20					2.00			
江東区	0.11		0.11	0.21							
品川区			0.13								
目黒区						1.00					
大田区	0.31	0.08	0.38	0.15							
世田谷	0.13		0.06			1.00		0.50			
渋谷区						3.00	1.00			1.00	
中野区	0.14		0.14								
杉並	0.50										
池袋				0.13							
北区						2.00					
荒川区	1.25					1.00					
板橋区	0.50		0.10			0.50					
練馬区	0.08										
足立	0.77			0.20		0.50					
葛飾区	0.13		0.25					3.00	1.00		
江戸川	0.45					1.00					
八王子市	0.45	0.09	0.09			1.50					
町田市	0.13		0.13								
西多摩	0.13										
南多摩	0.67										
多摩立川			0.14								
多摩府中	0.10		0.24								
多摩小平	0.07		0.07				0.50	0.50	0.50		
島しょ	1.00										

東京都	0.24	0.01	0.09	0.03		0.49	0.08	0.16	0.32	0.08	
-----	------	------	------	------	--	------	------	------	------	------	--

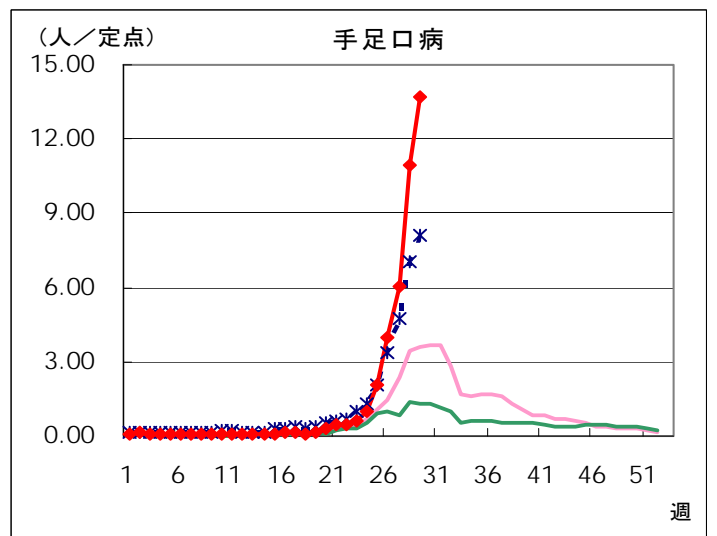
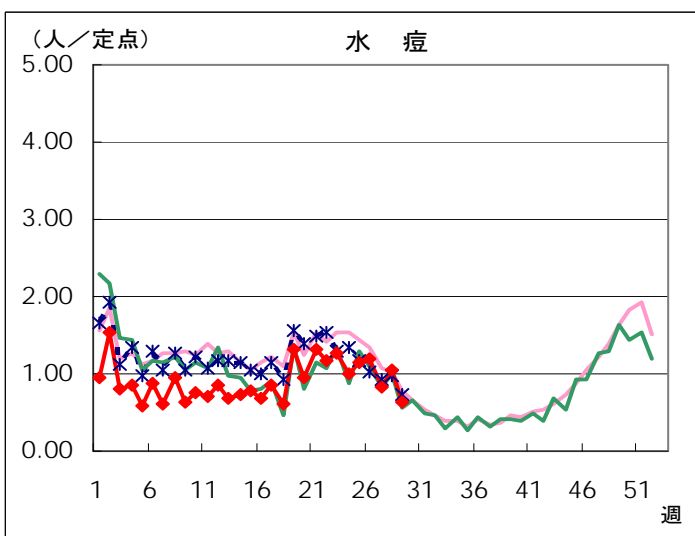
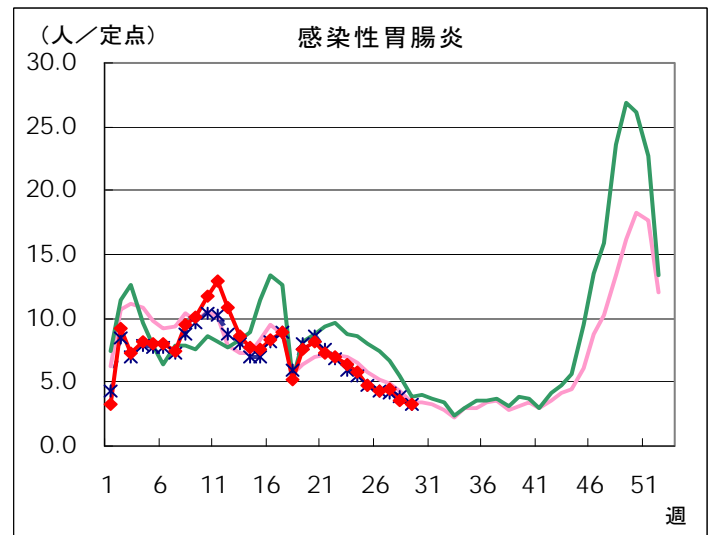
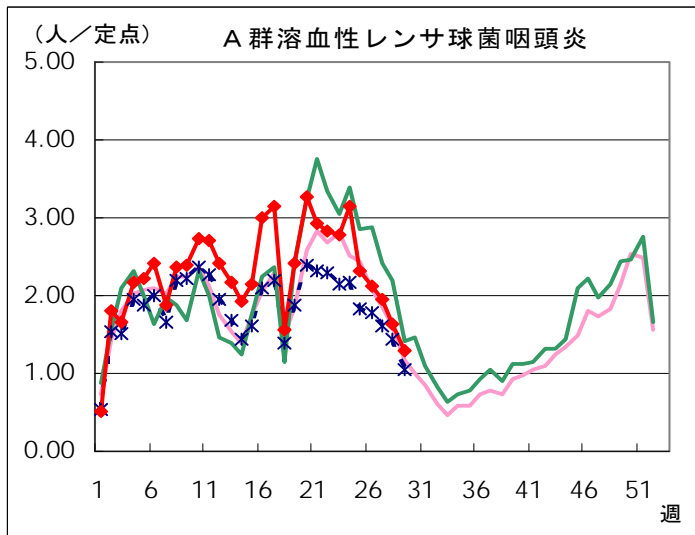
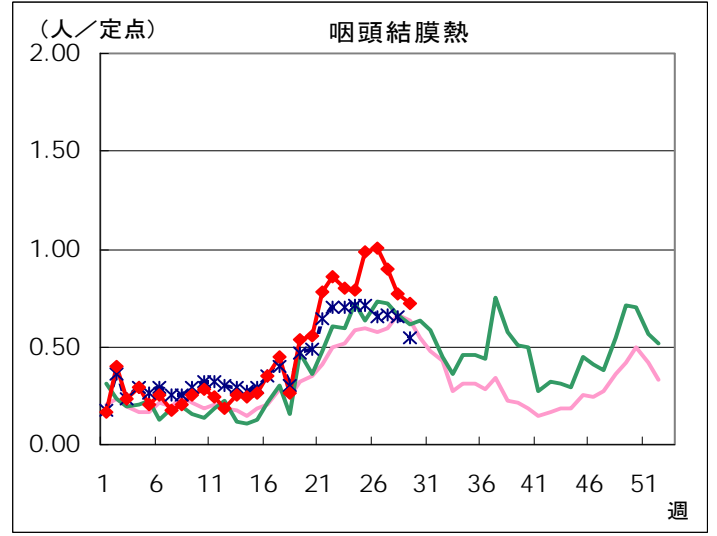
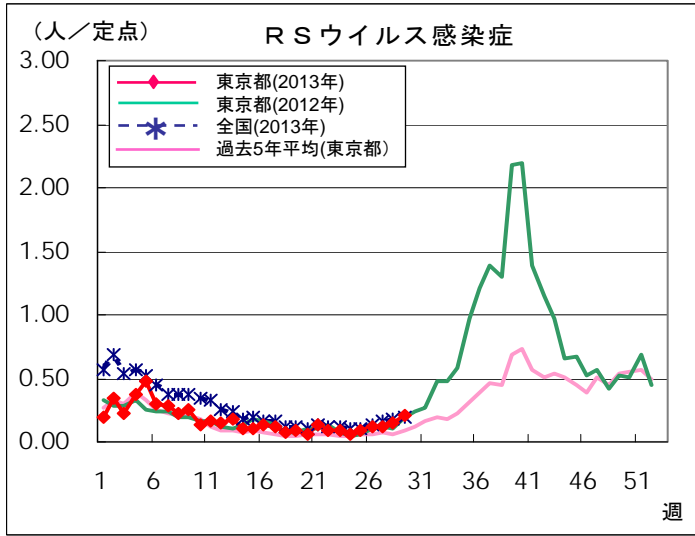
## 定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2013年29週

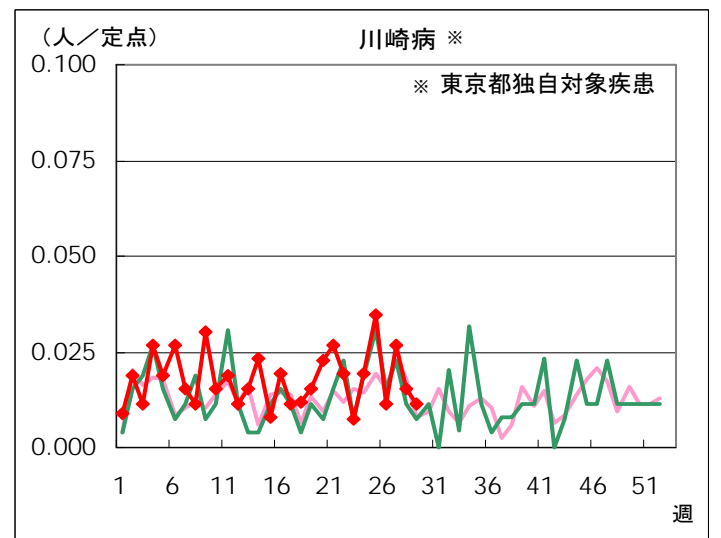
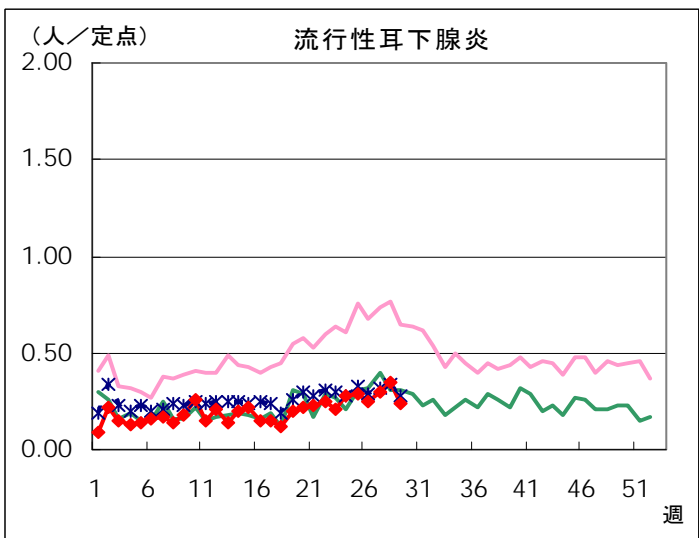
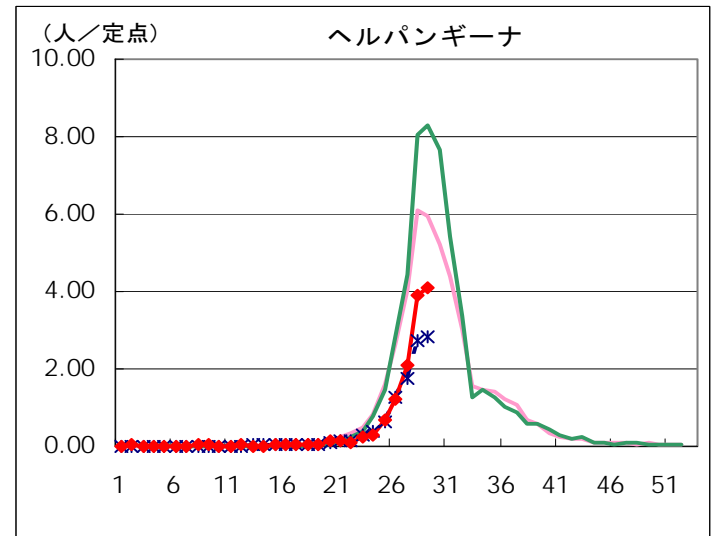
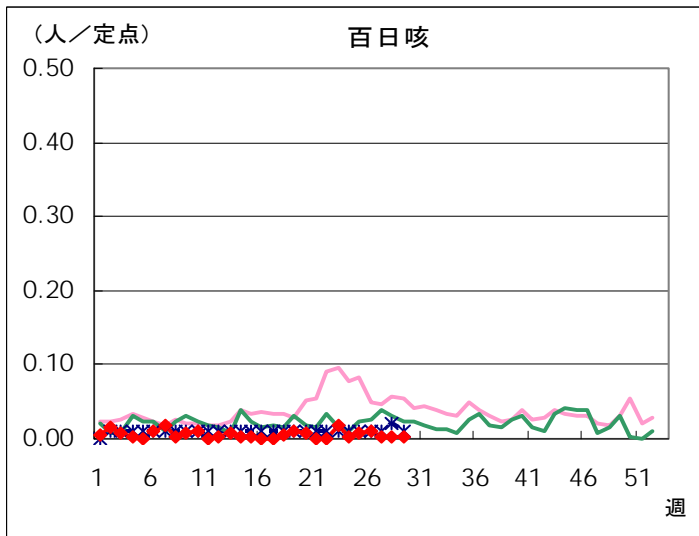
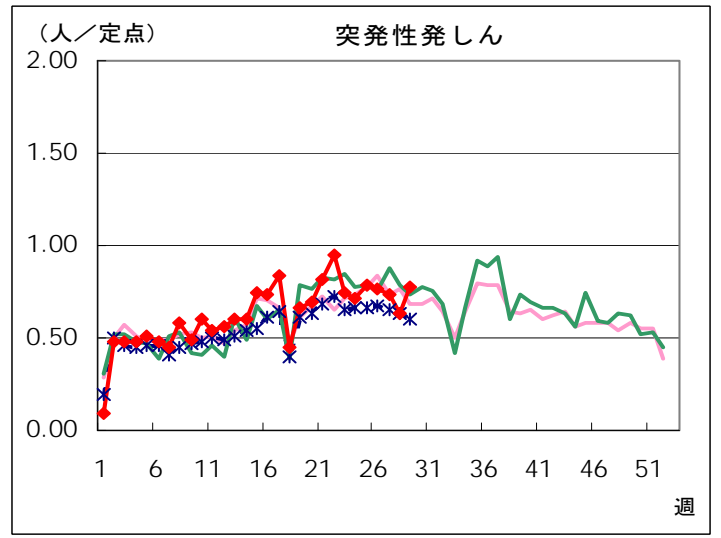
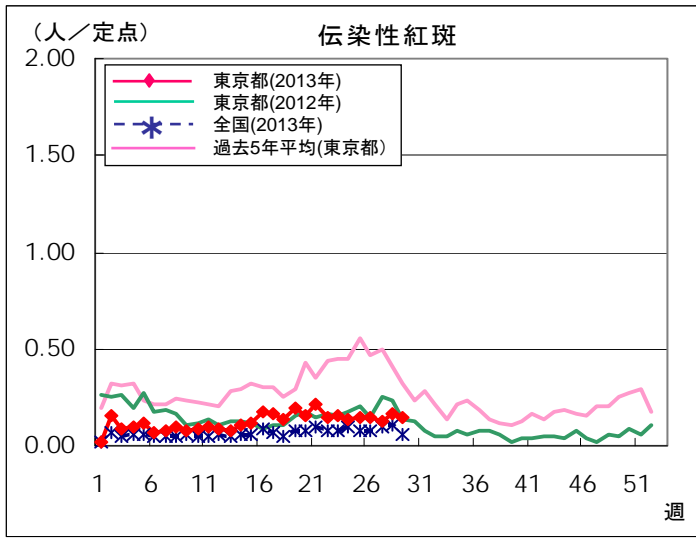
定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田				5		19				6
中央区		5	3	5		47		1		16
みなと	1	3	4	19	5	90	1	7		6
新宿区	3	1	11	26	3	70	9	2		22
文京		1	3	9	2	40		2		2
台東	1	1	6	16	1	61	5	4		7
墨田区	4	5	5	3	1	23		4		20
江東区	6	12	10	48	3	158		7		45
品川区			4	31	2	42	1	6		23
目黒区		1		10	7	26		2		12
大田区	9	18	20	85	9	129	1	11		76
世田谷	1	6	21	51	5	182	2	11		65
渋谷区		2	4	13		32		1		5
中野区			7	3	5	118		3		27
杉並		1	4	32	5	97		5		7
池袋	2	3	3	11		28		2		18
北区		3	4	12	6	116	1	6		9
荒川区	7	5	8	13	1	99		5		37
板橋区		3	3	17	7	125	5	6		16
練馬区		13	15	33	9	187	1	8	1	33
足立	4	14	24	44	5	208	1	17		63
葛飾区	1	4	1	40	3	81	1	4		19
江戸川	3	17	22	42	3	108		4		48
八王子市	1	9	21	52	6	356	3	9		57
町田市	1		22	50	8	196	1	9		105
西多摩			20	18	9	73		7		12
南多摩	3	3	12	13	10	214	4	8		64
多摩立川	2	19	39	28	13	201		12		51
多摩府中	2	17	27	52	21	210	1	20		128
多摩小平	2	22	16	56	15	257	1	20		78
島しょ										
東京都合計	53	188	339	837	164	3,593	38	203	1	1,077

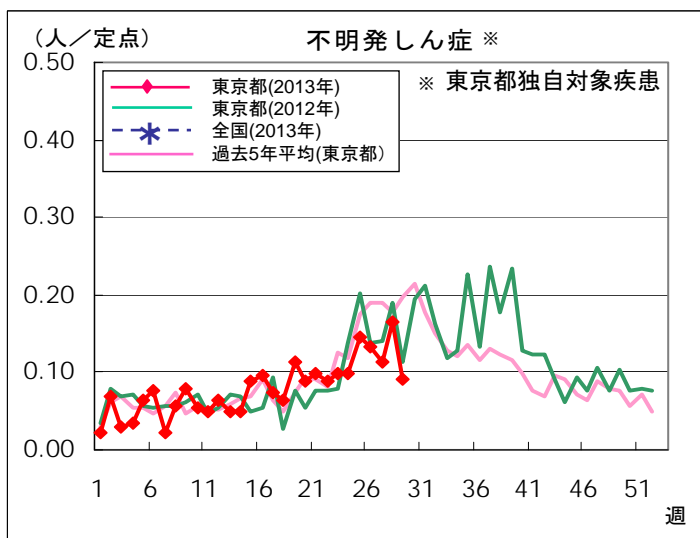
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田											
中央区											
みなと											
新宿区	1		1			1			4		
文京	1					2					
台東	2										
墨田区	2	1	1					2			
江東区	1		1	3							
品川区			1								
目黒区						1					
大田区	4	1	5	3							
世田谷	2		1			2		1			
渋谷区						3	1			1	
中野区	1		1								
杉並	5										
池袋				1							
北区						2					
荒川区	5					1					
板橋区	5		1			1					
練馬区	1										
足立	10			4		1					
葛飾区	1		2					3	1		
江戸川	5					2					
八王子市	5	1	1			3					
町田市	1		1								
西多摩	1										
南多摩	6										
多摩立川			2								
多摩府中	2		5								
多摩小平	1		1				1	1	1		
島しょ	1										
東京都合計	63	3	24	11		19	2	4	8	2	

# 定点把握対象疾患 週別報告数(2013年29週 現在)

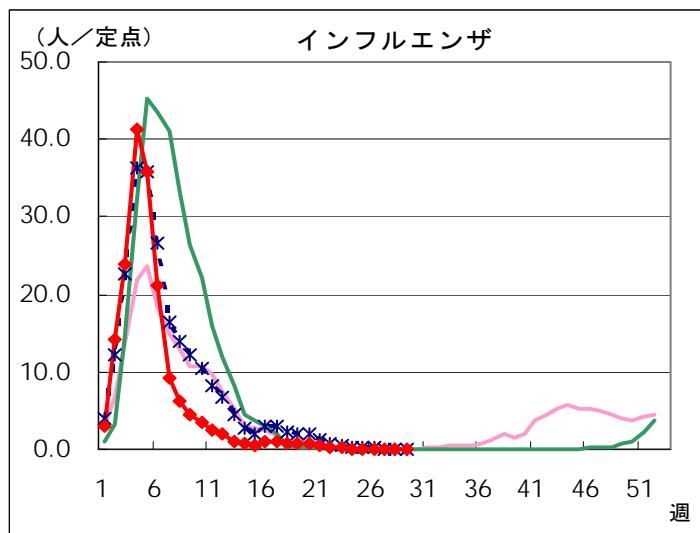
## ◆ 小児科定点



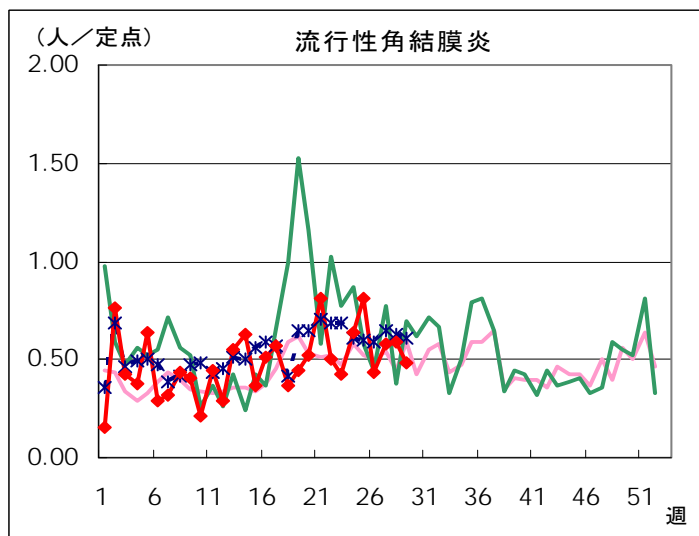
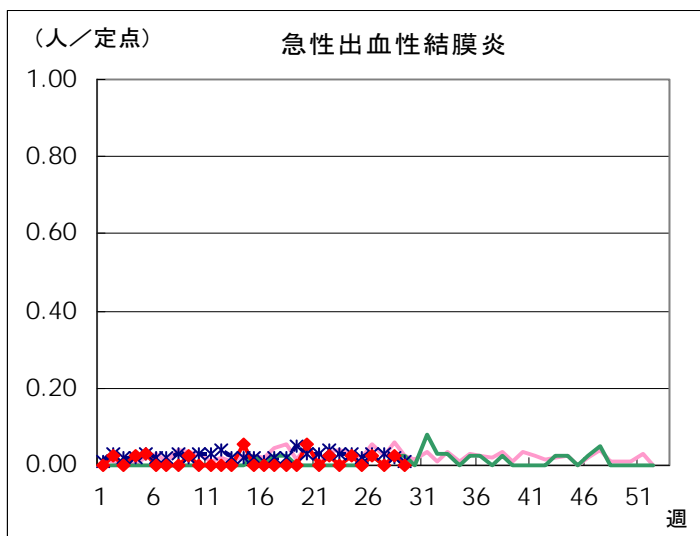




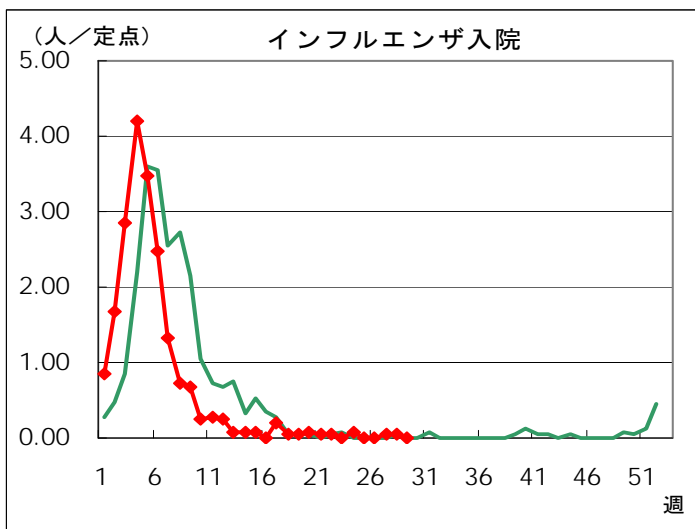
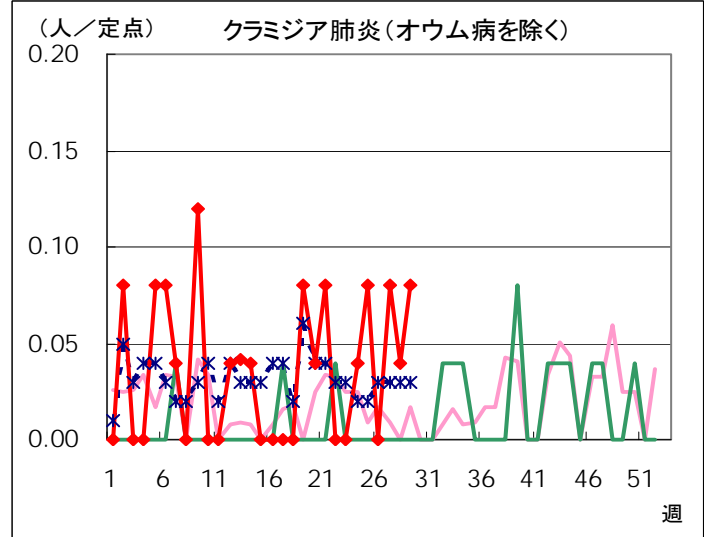
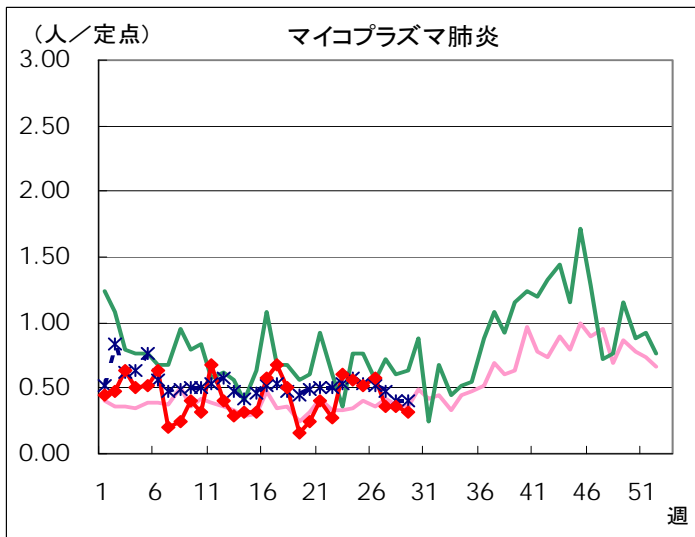
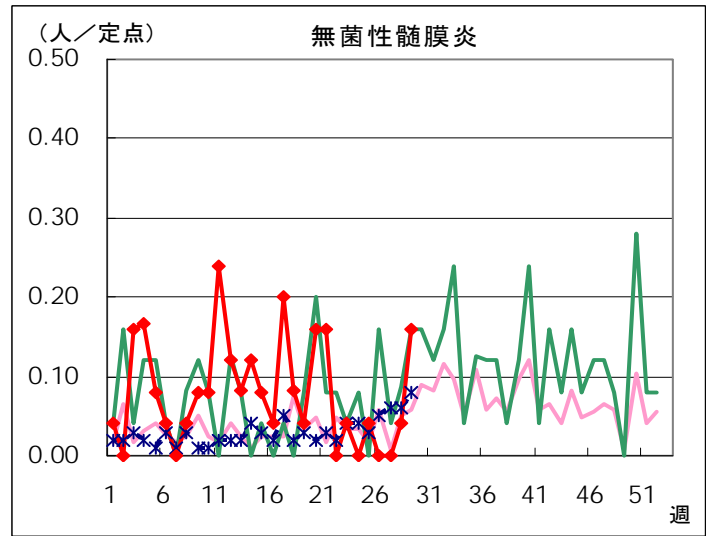
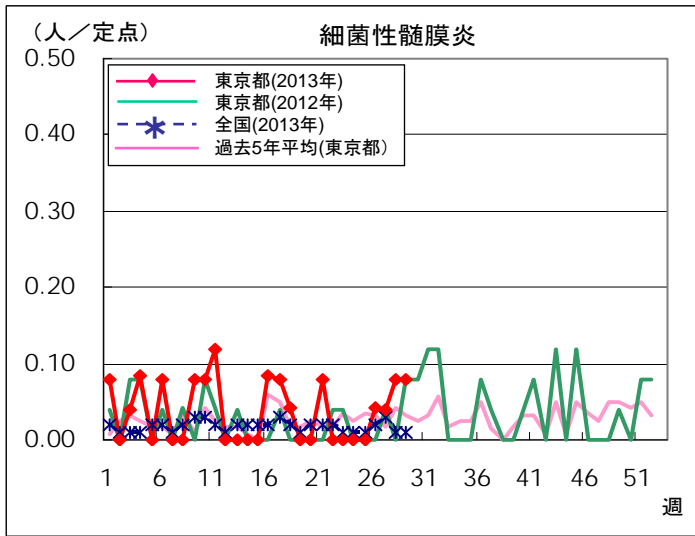
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



## 定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/11	ウイルス感染症	0	血清	コクサッキーウイルス A群6型	遺伝子
			咽頭拭い液		
7/9	髄膜炎	1M	髄液	コクサッキーウイルス B群1型	
7/9	RSウイルス感染症	3M	咽頭拭い液	RSウイルス	
7/9	不明発しん症	3M	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
7/8	突発性発しん	9M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
7/5	感染性胃腸炎 流行性耳下腺炎	11M	咽頭拭い液	サイトメガロウイルス	
7/9	アデノウイルス感染症	1	咽頭拭い液	アデノウイルス コクサッキーウイルス A群6型	
7/11	急性脳症	1	咽頭拭い液	EBウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型	
7/2	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
7/4	手足口病	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型 コクサッキーウイルス A群6型	
7/4	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
7/8	手足口病	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
7/8	手足口病	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型 コクサッキーウイルス A群6型	
7/9	手足口病	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型 コクサッキーウイルス A群6型	
7/5	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ライノウイルス 風しんウイルス	
7/6	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型 コクサッキーウイルス A群6型	
7/8	不明発しん症	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
7/8	ヘルパンギーナ	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
7/8	流行性耳下腺炎	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
7/7	手足口病	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
7/3	不明発しん症	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型 ヒトヘルペスウイルス 7型	
7/9	不明発しん症	2	咽頭拭い液	風しんウイルス ヒトヘルペスウイルス 6型 コクサッキーウイルス A群6型	



検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
7/9	水痘 手足口病	2	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	遺伝子
7/11	水痘 手足口病	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 7型 コクサッキーウイルス A群6型	
7/11	インフルエンザ	3	咽頭拭い液	ライノウイルス	
7/5	急性咽頭炎(発しん)	3	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型 パラインフルエンザウイルス 2型	
7/3	咽頭結膜熱	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型 パラインフルエンザウイルス 1型	
7/12	急性気管支炎	4	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス	
7/11	手足口病	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
7/8	手足口病	5	咽頭拭い液	エンテロウイルス 71型	
7/8	高熱	8	鼻汁	エンテロウイルス	
7/9	肺炎	13	咽頭拭い液	ヒトメタニューモウイルス	
7/9	流行性角結膜炎	39	結膜拭い液	アデノウイルス コクサッキーウイルス A群6型	
記載なし	急性咽頭炎 リンパ節腫脹	記載なし	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
28週			2	
2012-2013年 シーズン累計**	2		245	69

\* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

\*\* 2012-2013シーズンの開始は第36週(2012年9月3日～)

## 病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2013年							
		21週	22週	23週	24週	25週	26週	27週	28週
ウイルス	アデノウイルス	2	2	3	3	2	1	4	3
	ライノウイルス	4	2	3	4	4	3	5	2
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群	2		4	2	4	7	12	20
	コクサッキーウイルスB群	2		4	1				1
	エコーウイルス								
	エンテロウイルス71						1	3	1
	その他のエンテロウイルス			1					1
	単純ヘルペスウイルス								
	水痘・帯状疱疹ウイルス		4						
	ヘルペスウイルス6/7	4	2	7	4	6	5	6	12
	EBウイルス	3		1	2	6		1	1
	サイトメガロウイルス				1	1			1
	ムンプスウイルス			2	1	4			
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス	3		1		1			2
	パルボウイルスB19								
	RSウイルス		1				1	3	1
	ノロウイルス	1				1			
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3			1		1			2
	インフルエンザウイルスB	4	3	4		2	1		
インフルエンザウイルスAH1pdm09									
デングウイルス(抗体を含む)					1				
その他のウイルス	3	7	5	5	13	11	14	4	
細菌	カンピロバクター						1		
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2013年21週～2013年28週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他	
搬入検体数		21	56	67	21	32	10	1	3	5	35		43	18	9		5	79	
ウ イ ル ス	アデノウイルス		5	2	2		3		3				1	1				3	
	ライノウイルス	4	5	5			1			1			3	4	1			3	
	ポリオウイルス																		
	コクサッキーウイルスA群		3	2			1		1	3	27		6	1	3			4	
	コクサッキーウイルスB群			1		5							1					1	
	エコーウイルス																		
	エンテロウイルス71		1				1				2						1		
	その他のエンテロウイルス												1					1	
	単純ヘルペスウイルス																		
	水痘・帯状疱疹しんウイルス														4				
	ヘルペスウイルス6/7		2	1		3					11		21						8
	EBウイルス		1			1							1	7			1	3	
	サイトメガロウイルス									1				1				1	
	ムンプスウイルス					1								5				1	
	麻疹ウイルス																		
	風しんウイルス										1		3				1	2	
	パルボウイルスB19																		
	RSウイルス		1	5															
	ノロウイルス				2														
	ロタウイルス																		
インフルエンザウイルスAH1																			
インフルエンザウイルスAH3	4																		
インフルエンザウイルスB	12		1															1	
インフルエンザウイルスAH1pdm09																			
デングウイルス (抗体を含む)																		1	
その他のウイルス	1	16	36	3			2	1		1	1							1	
細 菌	カンピロバクター				1														
	サルモネラ																		
	腸管出血性大腸菌																		
	その他の腸管系病原菌																		
	溶血性レンサ球菌																		
	百日咳																		
	マイコプラズマ																		
	その他の細菌																		
その他の病原体																			

## <感染症豆知識>

### 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

重症熱性血小板減少症候群（severe fever with thrombocytopenia syndrome, SFTS）は平成 21 年に、中国湖北省と河南省の山岳地域に住む農民の間で、発熱、血小板減少、胃腸症状、白血球減少を示す急性疾患として最初に報告された。平成 23 年に中国 CDC が患者末梢血から分離した直径 80～100nm のウイルスは、ブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新規ウイルスで、主に SFTS ウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染すると考えられている。中国では少なくとも 7 つの省（遼寧省、山東省、江蘇省、安徽省、河南省、湖北省、浙江省）で患者発生が確認されている。また、米国ミズーリ州で平成 21 年に発生した SFTS 様患者から平成 24 年に米国 CDC が SFTS ウイルスに似た新種のフレボウイルス Heartland ウイルスを分離同定した。

日本では平成 25 年 1 月、平成 24 年秋に死亡した患者から SFTS ウイルスが初めて確認され、遡り調査の結果、平成 17～24 年までに発症した 10 名の SFTS 患者が確認されたが、中国で分離されたウイルスとは遺伝子レベルで少し異なっており、患者に渡航歴がないことから国内で感染したと考えられる。また、平成 25 年 5 月、韓国でも SFTS 患者が初めて確認された。

SFTS は平成 25 年 3 月 4 日から感染症法に基づく四類感染症として患者の全数届出が求められ、5 月 26 日までに 13 例（中・四国 6 例、九州 7 例）の報告がある。確定診断は血液、咽頭ぬぐい液、尿からのウイルス分離・同定や PCR による遺伝子検出あるいは血清中の I g M 抗体の検出またはペア血清による抗体陽転もしくは抗体価の有意上昇による。

（文責 国立感染症研究所感染症情報センター 山下和予）